

国立国語研究所学術情報リポジトリ

9.2.

全国方言準備調査における文法項目の結果分析と考察

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.15084/00002639 |

9.2. 全国方言準備調査における文法項目の結果分析と考察

日高水穂

(1) 概要

「全国方言準備調査」の文法項目は、5.3でも示したように、『方言文法全国地図』(GAJ)で取り上げられている項目と、新たに設定した項目からなる。

GAJ項目については、GAJと比較して変化が見られたかどうか注目されるが、今回の準備調査においては、ほとんどの項目で変化がないという結果であった。これは今回の準備調査が、GAJの調査時期から30年程度を経たに過ぎないことと、伝統方言を保持している話者を選定して調査するという方針を採ったことによるとと思われる。

新規項目については、今回の準備調査の地点数では、分布の広がりを確認することは難しい。一方、新規項目にはGAJで欠けていた関連項目が含まれているが、それらの項目については、不明であった関連意味領域の表現の分布の確認ができたと言える。

以下では、文法項目の分布に関して、変化のきざしが読み取れる例として、仮定条件表現の調査結果を取り上げる。なお、仮定条件表現の項目には、GAJに含まれていない関連項目も含まれている。

(2) 文法項目の分布の変化：仮定条件表現を例に

仮定条件表現の分布は、近畿地方のタラを取り囲んでバ類が分布するという典型的な周囲分布をなすことで知られる。図1-1はGAJ167図「雨が降れば船は出ないだろう」の略図である。一方、図1-2は今回の準備調査の結果であるが、GAJではバ類やト類が優勢であった宮城、山形、福島、バ類が優勢であった栃木、兵庫の調査地点にタラが回答されており、タラの分布拡張の傾向が読み取れる。図2-1「お前が行くとその話はだめになりそうだ」(GAJ169図)と図2-2を比較しても、タラは分布領域を広げているようである。

以上のような分布を示すのは、仮定条件表現の用法の中でも、恒常的事態としての解釈が可能な後件が平叙文である場合である。後件が意志・命令表現等の一次的・個別的事態としての解釈がなされやすい文タイプである場合、バ類は用いにくく、タラが用いられやすくなる。図3-1「雨が降ったらおれは行かない」(GAJ168図)および図3-2は、後件が意志表現となっている項目であり、全国的にタラが分布していることが確認できる。ただし、意志表現では平叙文と形態的な違いがないため、後件の文タイプの制限があまり強く表れず、図3-1、図3-2ともバ類やト類の分布も散見される。図3-1よりも図3-2のほうが、ややタラの分布が外側(秋田、鹿児島など)に広がっているようにも見えるが、これが文タイプの制限を超えた現象であるのかは、意志表現の場合は判断が難しい。今回の調査では、新規項目として、後件が命令表現である項目「そこに行ったら電話しろ」を加えた。その調査結果を示した図4を見ると、全国的にタラが用いられており、仮定条件表現の後件の文タイプの制限は、各地諸方言に共通するものであることが確認できたと言える。

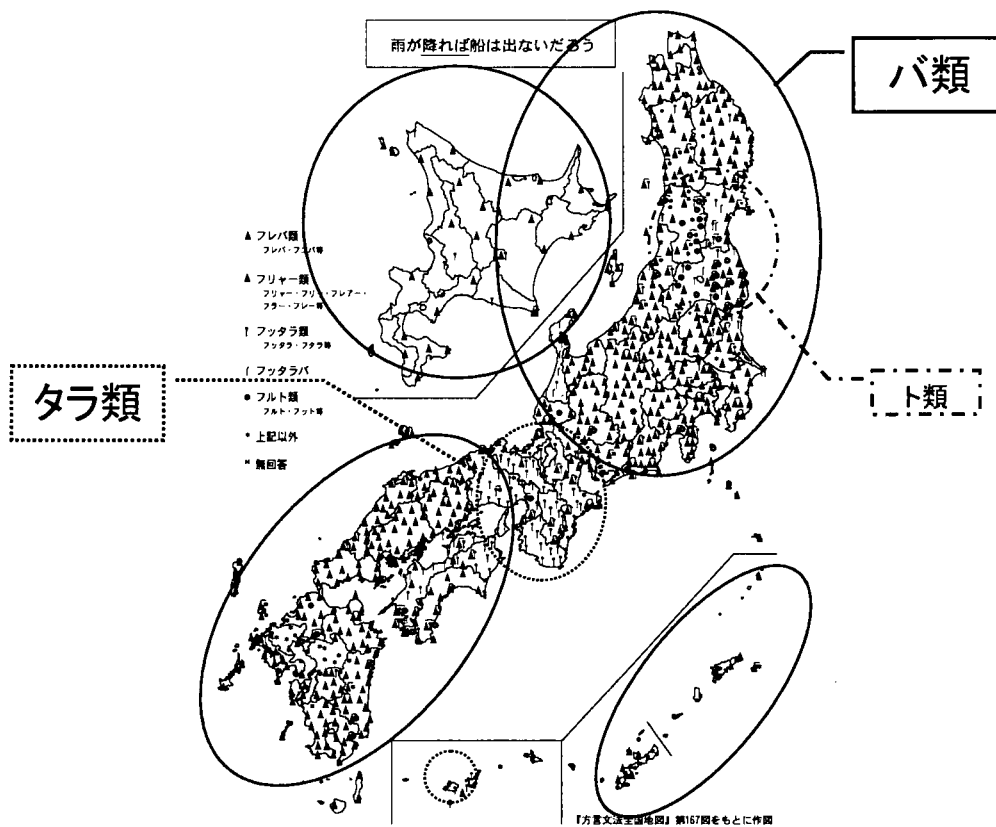


図 1-1 雨が降れば船は出ないだろう (GAJ167 図の略図)

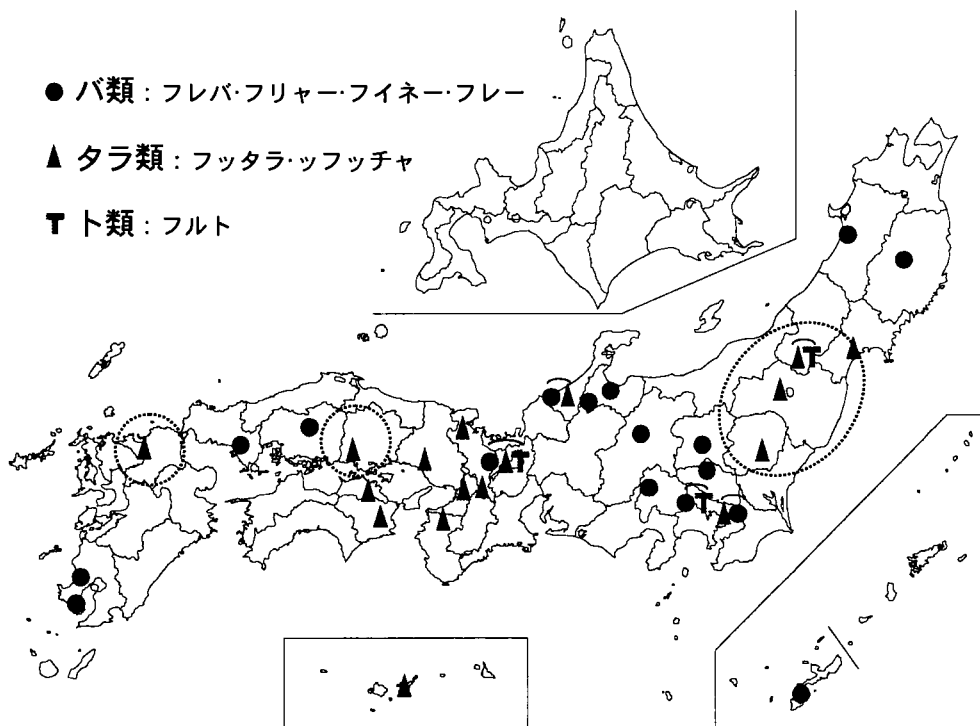


図 1-2 雨が降れば船は出ないだろう (全国方言準備調査 JG-108)

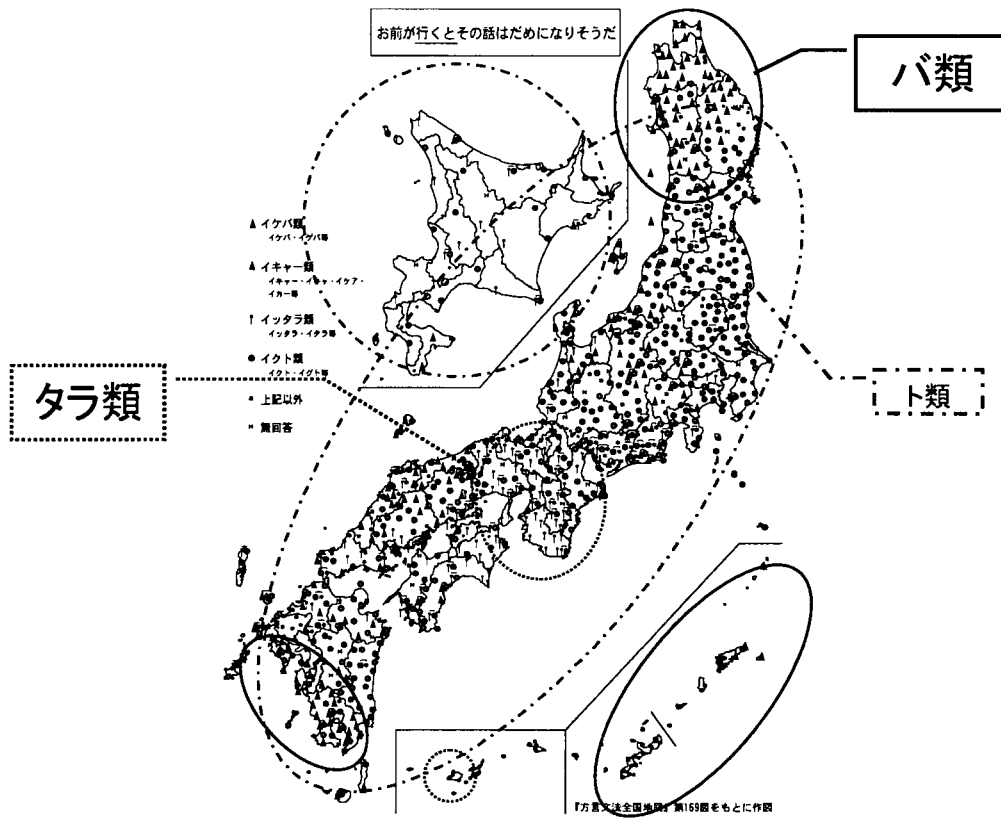


図 2-1 お前が行くとその話はだめになりそうだ (GAJ169 図の略図)

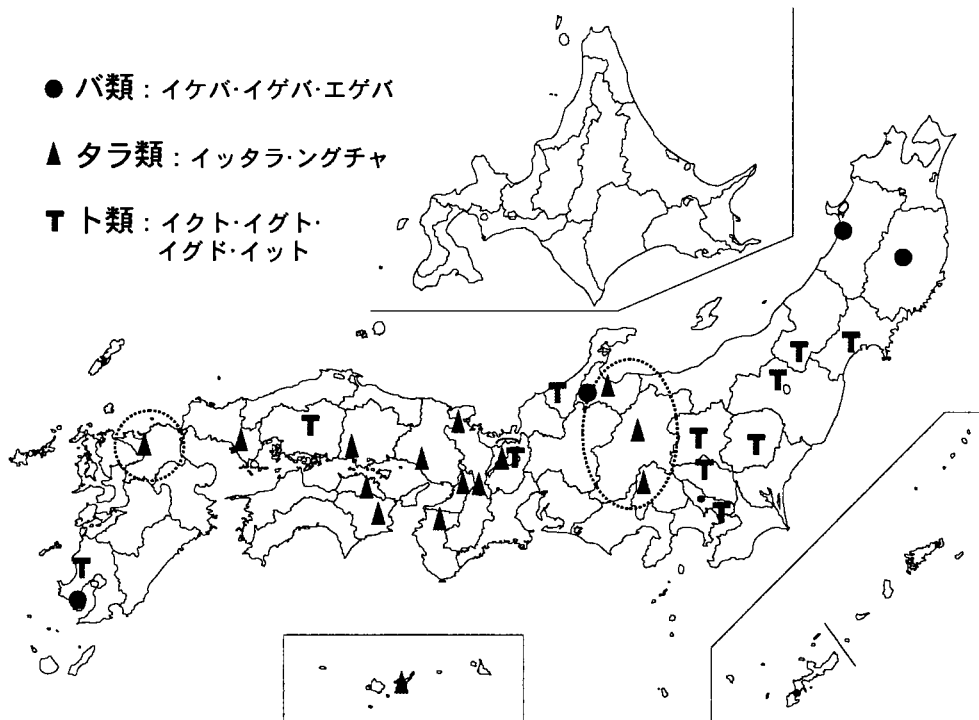


図 2-2 おまえが行くとその話はだめになりそうだ (全国方言準備調査 JG-103)

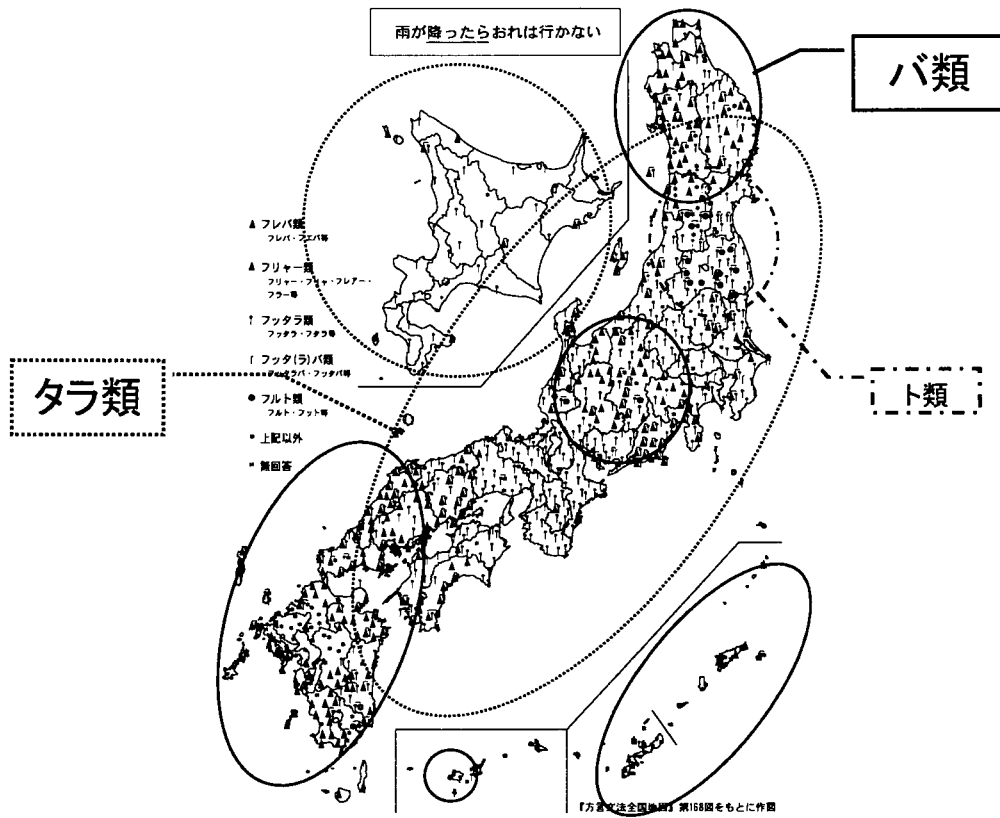


図 3-1 雨が降ったらおれは行かない (GAJ168 図の略図)

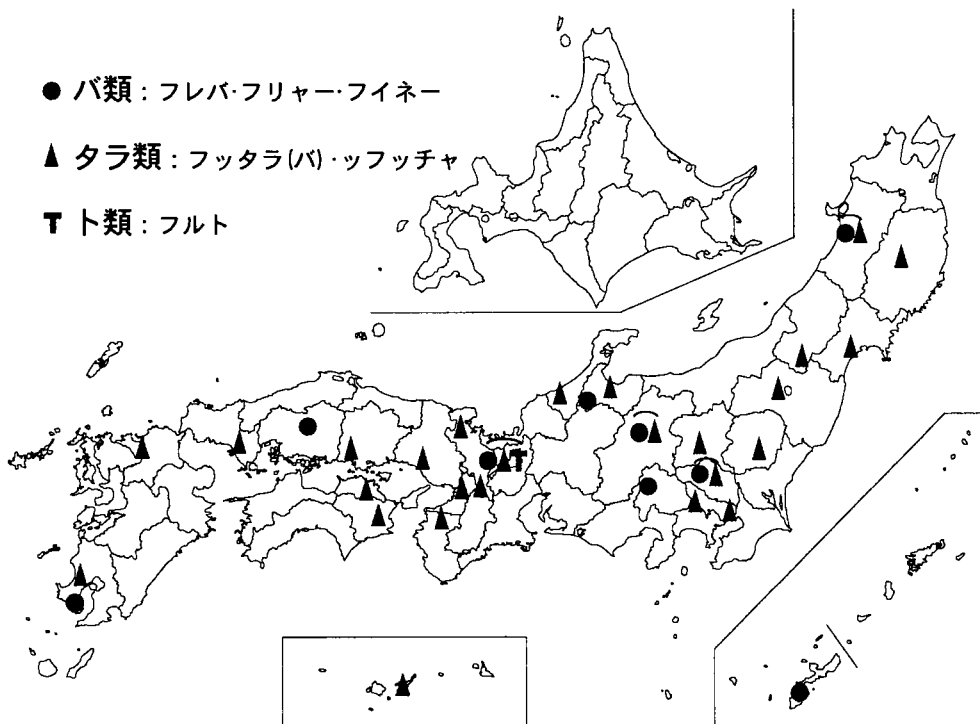


図 3-2 雨が降ったらおれは行かない (全国方言準備調査 JG-106)

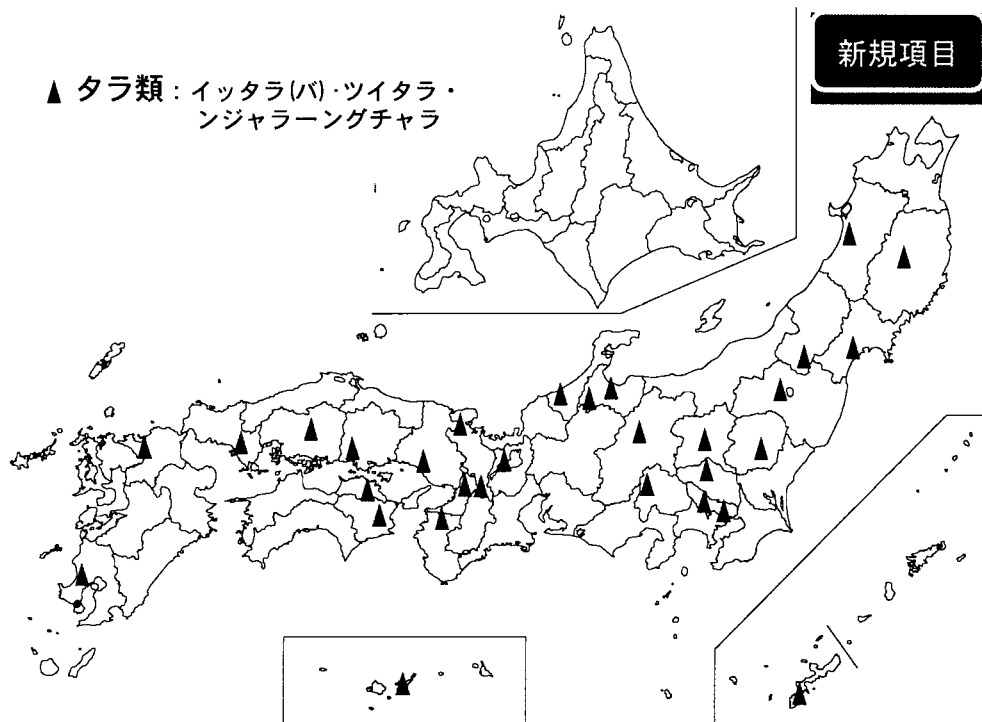


図4 そこに行ったら電話しろ (全国方言準備調査 JG-104)

(3) 調査項目改訂の方針

今回の準備調査の結果をふまえると、文法項目については、GAJ の調査時期とは大きく異同はないと予想される。したがって本調査の実施にあたっては、以下の点を項目改訂の方針とし、GAJ の検証および発展的調査をめざすことが有効であると考えられる。

1. 分布に異同があると（確実に）予想されるものは、同一の質問文で再調査する。
2. 確認語形を設定するなど、実験・検証的な調査を行う。
3. 意味体系を網羅的にとらえるために、GAJ では欠けていた関連項目を積極的に取り上げる。
4. 分布調査の特性を活かすために、体系記述的な複雑な設定のものは避ける。

参考文献

- 日高水穂 (2003) 「条件表現「すれば」「したら」「すると」『現代日本語の文法的バリエーションに関する基礎的研究』科学研究費補助金研究成果報告書
- 日高水穂 (2008) 「「そこに車をとめればダメです」－標準語と方言の意味のずれ－」『言語』37-5
- 三井はるみ (2009) 「条件表現の地理的変異－方言文法の体系と多様性をめぐって－」『日本語科学』25